

第 103 回助産師国家試験分析報告

第 103 回助産師国家試験について、公益社団法人全国助産師教育協議会（以下、本協議会）の立場から「助産師免許付与のために必要な能力」が測定できる出題か否かを分析した。

分析に当たっては、各設問から出題内容のバランスを平成 30 年版助産師国家試験出題基準目標別に分類した。

具体的には以下の 3 点を検討した。

- ① 設問と解答肢の検討
- ② タキソノミー分類および平成 30 年版助産師国家試験出題基準からみた出題内容のバランス
- ③ 助産師 免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否か

本分析結果が、第 103 回助産師国家試験において当該年度の助産師免許付与のための採点や合格基準の検討資料として活かされることを切に希望するものである。

分析結果を以下に示す。

I. 設問と解答肢の検討

設問と解答肢の検討については、午前問題 17 と午前問題 34 を課題のある問題と判断した。詳細については「出題問題の検討」（表 1）を参照されたい。

今日のハイリスク妊娠出産の増加に伴い、助産実践の基盤となる医学的知識を問う問題が増えていた。全体的に、設問には解答に必要な情報が適切に記述されていた。出題の意図が明確で基本的知識を問う問題が多く、文章で問うことが難しい問題については、図や写真などの視覚素材を効果的に用いて出題されていた。その一方で、助産実践に関する状況設定問題の中には、専門的知識がなくても解答できる設問が含まれていた。

II. 出題内容のバランス

出題内容のバランスについては「出題基準別にみた出題テーマ」（表 2）、および「出題基準目標別の問題数とその割合」（表 3）、「出題基準（小項目）別にみた出題数と割合」（表 4）を参照されたい。知識の想起・推定によって解答できる問題（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型）が 53.3%と前年の 62.6%より 9.3 ポイント減少し、複数の知識を統合して判断する能力をみる問題（タキソノミーⅡ・Ⅲ型）は 46.6%と前年の 37.4%より 9.2 ポイント増加していた。

平成 30 年版助産師国家試験出題基準目標は、以下の 4 群 24 項目に分類される。

【基礎助産学】

1. 助産の基本となる概念と変遷、基本姿勢について基本的な理解を問う。
2. 女性の健康に関する支援のための基本的な理解を問う。
3. リプロダクティブ・ヘルスに関する支援のための基本的な理解を問う。
4. 妊娠による女性の変化や正常な妊娠・分娩・産褥の経過及び正常な新生児の経過や乳幼児の成長・発達における特徴について基本的な理解を問う。

【助産診断・技術学】

5. 女性や家族の健康課題の解決、健康の保持・増進に必要な相談・教育について基本的な理解を問う。

6. 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動の実際について基本的な理解を問う。
7. 助産に必要な助産診断・技術について基本的な理解を問う。
8. 妊娠期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。
9. 正常な妊娠経過からの逸脱及びハイリスク状態にある妊婦への支援について基本的な理解を問う。
10. 分娩期の助産診断及び正常な経過にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
11. 正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
12. 助産に必要な緊急時・搬送時の対応について基本的な理解を問う。
13. 産褥期の助産診断及び支援についての基本的な理解を問う。
14. 正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
15. 妊娠期から産褥期における合併症がある妊産褥婦への支援について基本的な理解を問う。
16. 新生児期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。
17. 新生児の正常からの逸脱及び異常な症状・状態・疾患がある新生児と家族への支援について基本的な理解を問う。
18. 乳幼児の正常発達・発育経過を判断し、それらを促進する支援について基本的な理解を問う。
19. 乳幼児に起こる主な疾患及び支援について基本的な理解を問う。
20. 低出生体重児・早産児の特徴や疾患及び支援について基本的な理解を問う。

【地域母子保健】

21. 母子保健の動向について基本的な理解を問う。
22. 母子保健活動及び助産業務を行う上で必要な母子保健行政と母子保健制度・施策について基本的な理解を問う。
23. 助産師が行う地域母子保健活動の実際について基本的な理解を問う。

【助産管理】

24. 助産管理の基本、助産業務管理、助産所の管理・運営、周産期医療とその安全について基本的な理解を問う。

「出題基準目標別の問題数とその割合」(表3)より、出題割合の多い順に、第103回は助産診断・技術学54.1%(第102回55.0%、第101回50.9%)、基礎助産学30.8%(第102回29.0%、第101回31.8%)、助産管理10.5%(第102回9.9%、第101回11.8%)、地域母子保健4.5%(第102回6.1%、第101回5.5%)となっており、助産診断・技術学および地域母子保健の割合が減少し、基礎助産学および助産管理の割合が増加していた。

また、今年度の問題のタキソノミー分類は、タキソノミーⅠ型45問(33.8%)(第102回58問、44.3%)、Ⅰ'型26問(19.5%)(第102回24問、18.3%)、タキソノミーⅡ型38問(28.6%)(第102回、29問、22.1%)、Ⅲ型24問(18.0%)(第102回20問、15.3%)であり、タキソノミーⅠ型(知識の想起・推定によって解答できる問題)が最も多く、タキソノミーⅢ型(複数の知識を統合して判断する能力をみる問題)の割合が最も少なかったことは第102回と同様であったものの、タキソノミーⅠ型・Ⅰ'型の割合が減少し、タキソノミーⅡ型・Ⅲ型の割合が増加していた。

基礎助産学に関する問題の割合は、41問(タキソノミーⅠ・Ⅰ'型29問、タキソノミーⅡ・Ⅲ型12問)で全体の30.8%であった。その内訳では、周産期の正常経過等の基礎理解に関する問題、女性の健康支援のための基礎理解に関する問題の順に多く、基本理念、基本姿勢からは出題されていなかった。

助産診断・技術学に関する問題の割合は、72問(タキソノミーⅠ・Ⅰ'型27問、タキソノミーⅡ・Ⅲ型45問)で全体の54.1%であった。その内訳では、妊娠期の診断とケアに関する問題が20問(タキソノミー

I・I'型 8問、タキノミーⅡ・Ⅲ型 12問)で全体の15.1%であり、第101回(14.6%)・第102回(13.8%)と比べて多かった。そのうち、正常な妊娠経過からの逸脱及びハイリスク妊婦への支援に関する問題は15問(11.3%)であり、妊娠期の助産診断と支援に関する問題の3倍の割合を占めていた。分娩期の診断とケアに関する問題の割合は、18問(タキノミーI・I'型 6問、タキノミーⅡ・Ⅲ型 12問)で全体の13.6%であり、昨年(第102回)の19.8%と比べて少なかった。そのうち、正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク産婦への支援に関する問題が13問(9.8%)と最も多く、次いで分娩期の正常経過の助産診断と支援に関する問題(3.0%)、緊急時・搬送時の対応に関する問題(0.8%)となっていた。産褥期の診断とケアに関する問題の割合は、14問(タキノミーI型 1問、タキノミーⅡ・Ⅲ型 13問)で全体の10.5%であり、昨年(第102回)の6.1%と比べて多かった。そのうち、産褥期の助産診断と支援に関する問題と正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク産婦への支援に関する問題は同じ割合(4.5%)を占めていた。新生児期の診断とケアに関する問題の割合は、9問(タキノミーI・I'型 6問、タキノミーⅡ型 3問)で全体の6.8%であり、昨年(第102回)の7.1%とほぼ同じ割合であった。そのうち、正常な経過からの逸脱及びハイリスク新生児への支援に関する問題が6問(4.5%)であり、新生児の助産診断と支援に関する問題の2倍の割合を占めていた。乳幼児期の診断とケアに関する問題の割合は、8問(タキノミーI型 3問、Ⅱ・Ⅲ型 5問)で全体の6.1%であり、昨年(第102回)の0.8%と比べ大幅に増加していた。そのうち、低出生体重児・早産児の特徴や疾患及び支援に関する問題は5問(タキノミーI型 1問、タキノミーⅡ・Ⅲ型 4問)で(3.8%)と最も多く、昨年(第102回)の3.1%とほぼ同じ割合であった。

地域母子保健に関する問題の割合は、6問(タキノミーI型 4問、タキノミーⅡ・Ⅲ型 2問)で全体の4.5%であり、昨年(第102回)の6.1%と比べて少なく、母子保健の動向に関する問題が最も多く出題されていた。

助産管理に関する問題の割合は、14問(タキノミーI・I'型 11問、タキノミーⅡ型 3問)で全体の10.5%であり、昨年(第102回)の9.9%とほぼ同じ割合であった。

Ⅲ. 助産師免許付与に必要な能力(レベル)を測定する問題か否か

「出題基準(小項目)別にみた出題数と割合」(表4)、「出題基準目標別の問題数とその割合」(表3)より、タキノミーI・I'型の主に知識を問うものが53.3%であった。また、解釈・判断を求めるタキノミーⅡ型は28.6%、さらに高度な判断能力を問うタキノミーⅢ型は18.0%を占めていた。昨年(第102回)は、タキノミーI・I'型62.6%、タキノミーⅡ型22.1%、タキノミーⅢ型15.3%であり、今年度は主に知識を問うタキノミーI・I'型の出題が減少し、逆に高度な判断能力を問うタキノミーⅢ型の出題が多くなっていた。

出題内容では、助産学の基礎となる妊娠・分娩・産褥経過と新生児・乳幼児に関する正常及び正常からの逸脱の予測と判断、異常に関する基本的な知識や支援に関する問題が出題されていた。また、母子保健の動向、母子保健行政と母子保健制度・施策および地域母子保健活動、院内助産、病院・助産院を含めた助産業務管理に関する問題など、今日の助産を取り巻く課題とニーズに合致した内容が出題されていた。

今回の出題問題のテーマ、タキノミー分類別の割合の変化は、今日の助産を取り巻く状況に応じたものであり、助産師免許付与に必要な能力(レベル)を測定する問題として適切である。

総括

1. 出題問題の検討については、2問を課題のある問題と判断した。
2. 全体的に、設問には解答に必要な情報が適切に記述されていた。出題の意図が明確で基本的知識を問う問題が多く、文章で問うことが難しい問題については、図や写真などの視覚素材を効果的に用いて出題されていた。その一方で、助産実践に関する状況設定問題の中には、専門的知識がなくても解答できる設問が含まれていた。
3. 出題問題のタキノミー分類別の割合では、複数の知識を統合して判断する能力をみる問題(タキノ

ミーⅡ・Ⅲ型)の増加が望ましいが、知識の想起・推定によって解答できる問題(タキソノミーⅠ、Ⅰ'型)が53.3%と昨年の62.6%より9.3ポイント減少し、複数の知識を統合して判断する能力をみる問題(タキソノミーⅡ・Ⅲ型)は46.6%と昨年の37.4%より9.2ポイント増加しており、改善が認められた。

4. 助産学の基礎となる妊娠・分娩・産褥経過と新生児・乳幼児に関する正常及び正常からの逸脱の予測と判断、異常に関する基本的な知識や支援に関する問題が出題されていた。また、母子保健の動向、母子保健行政と母子保健制度・施策および地域母子保健活動、院内助産、病院・助産院を含めた助産業務管理に関する問題など、今日の助産を取り巻く課題とニーズに合致した内容が出題されていた。

以上より、助産師免許付与に必要な能力(レベル)を測定する問題か否かについては、適切であると思われる。

以上